

2009年のスキーO世界選手権の日本開催が決定! いやが上にも高鳴る興奮! 3月の北極圏にジャパンプームが巻き起こるか! オーロラ輝くフィンランドのレヴィに向かって選手のコメント

日本選手団

女子

酒井佳子	秋田県 (北海道)	4回
元木友子	長野県	4回
植野由香	北海道 (長野県)	3回
高橋美和	東京都	1回

男子

元木 悟	長野県	5回
幸山敏克	青森県	3回
高橋直博	山形県	1回
堀江守弘	山形県	2回
山田敦史	秋田県	2回

オフィシャル

武石雄市	総監督 (団長)
酒井か代子	庶務

選考経過

2004年の選考対象レースのスプリントで1位の元木悟、酒井佳子が内定。

同年のロングディスタンス及びミドルディスタンスはレース不成立。

2005年1月J-Cup。最終選考会のショートディスタンス1位の三浦裕司、元木友子が権利を取ったが三浦が勤務先の都合で出場辞退。

同ロングディスタンス1位の幸山敏克、植野由香が確定。

選考委員会が男子高橋直博、堀江守弘、山田敦史。女子高橋美和を全員一致で選考し、同会場において委員長から発表された。

出場枠

出場種目は、選手にはすでに通告しているが最終的にレース前日の19:00までにオーダーを提出する。

個人種目は各国4名まで。男子リレーは2004年のルール改定で3名となった。

期待度

男子は現在の日本トップレベルの選手が全員選考されたわけではないが、

ベテランの元木と幸山に加えてスキー技術抜群でロバニエミ在住の高橋直博とモーア(スウェーデン)のスキー専門学校に留学中の堀江が加わり楽しみなチームとなった。

特に堀江はスウェーデン選手とのトップ比をコンスタントに120%台をキープしているのでランクB(30位以内)を獲得するチャンスである。

リレーもこのメンバーの誰が出て初めて10-15位を狙える位置にいると予想する。

女子は、現在国内で第一人者の酒井が1年間計画的にトレーニングしてきたので、当然のようにWOC2004(28位)より上位に上がるだろう。

植野は仕事の関係でトレーニング不足だが、ここ一番の集中力に期待しよう。元木友子はフットの代表と二股をかけているが、研究熱心な彼女の切り替えは見事である。フットの好調をスキーにも延長してリレーを夢の一桁台に期待しよう。

男子の山田、女子の高橋(美)も2種目の出場が確定しているので、最後まで集中力を維持すると実力以上の結果が予想される。

元木友子

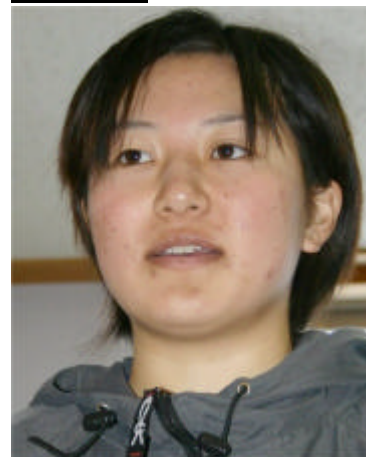


今回は、私がスキーOを始めたときからずっと第1線でチームを引っ張ってきた'お姉さん'酒井佳子さんと、彼女が長野でスキーOを始めたときからの付き合いの'妹'植野由香さんと初めてリレーチームを組んで世界に挑みます。

また、フット長野県チームとしていつもお世話になっている高橋美和さんや、所属クラブのお母さんの存在の酒井か代子さんも参加して、今年の子供チームはいつになくにぎやかです。

個人的にはスキー技術の課題はまだ多いですが、ナビゲーション技術と気合?で個人、リレー共に去年より少しでも上位に行けるようがんばります。

植野由香



皆さんの足を引っ張らないように精一杯頑張ります。

酒井佳子



昨シーズン以上にトレーニングできたので、レヴィの大会がとっても楽しみです。

高橋美和



ひょんなことから目指すことになった世界選手権ですが、たくさんの鬼コーチに恵まれ、無事代表になることができました。

今は滑るたびにどんどんうまくなっているのが自分でもわかるので、この勢いでがんばります。

元木 悟



5度目のSki-O世界選手権代表、そして今回は最年長でチームリーダーとしての参加です。

前々回のブルガリアの世界選手権(2002年)まではSki-Oを始めた頃の海外遠征(1997年スウェーデンワールドカップ)と順位的にはあまり変わっていませんでしたが、前回のスウェーデンの世界選手権(2004年)では、現状の自分の力のある程度発揮でき、一つ上のレベルに到達できたと感じて帰国しました。

1996年に手探りの状態からSki-Oを始めて、「オリエンティア」の一人としてSki-Oの普及と自分自身の競技力向上に取り組んできました。

7年前の左肘靭帯損傷(全治4カ月)、3年前の右頬と右臉上の裂傷(縫針処置)、右手首捻挫など、トレーニングや

レースの中で、バランスが大切なスキーにとって致命的な大怪我をしてきました。

しかし、最近のSki-Oでは、以前に比べて体力(筋力)的に劣る分、持ち前の地図読みを活かしたOL技術で、攻めのレースを心掛けています。

今回の日本チームは、海外在住の2名を加え、過去の日本代表メンバーや成長著しい新人により構成されています。現在、私はJOAの理事(長野県協会会長)として、Ski-Oの普及を考えていますが、「オリエンティア」からも「スキーヤー」からも多くの新しい仲間がSki-Oに参戦し、その仲間と競いながら、今後、日本代表チームが飛躍できることを望んでいます。今回の世界選手権がその第一歩になればと思っています。

幸山敏克



1998年オーストリア以来、7年ぶりの世界選手権出場です。

今年のテーマは「自己への挑戦」です。自分の『弱い気持ち』に負けないで、レースをする。世界選手権の最高の舞台で、自分を試す。そのためにフィンランドに行ってきます。

今は久しぶりの海外遠征にむけて、ワクワクしながら準備をしています。体調管理をしっかりして、世界選手権を楽しんでいきます。日本チームへの応援よろしくをお願いします。

高橋直博

フィンランド・ロバニエミの紙面はスキーOの話題で持ちきりです。

自分の出る種目はもちろんですが、遠来の日本選手のサポートにも気を配ります。

堀江守弘

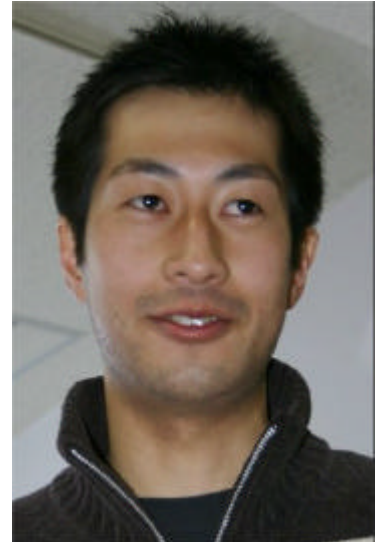
私はこの半年間、スキーOに専念するためにスウェーデンに留学しています。

3年前、ブルガリアで開催された世界選手権に参加したときは、競技にかける意気込みが違います。体力、技術全てにおいても段違いです。

スウェーデンには世界のトップと言っても過言ではない選手がいます。2

月上旬までのレースで、トップ比120%台を確実に出せるようになっていきます。3月の世界選手権ではトップ比110%台の滑りも不可能ではありません。今までの日本人にない活躍を期待してください。

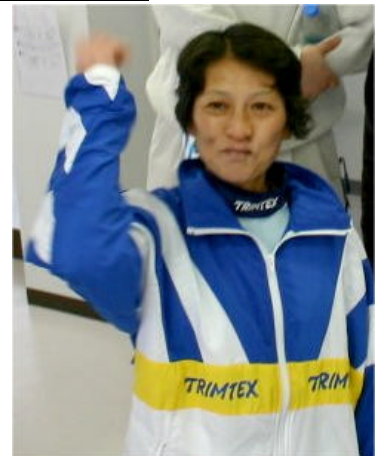
山田敦史



選考会では満足な結果を残すことができませんでした。運よく2度目の世界選手権に参加させていただくことになりました。

すべてのレッグに集中して、一つでも上の順位を目指したいと思います。応援よろしくをお願いします。

酒井か代子(チームオフィシャル)



スキーは初心者レベルですが、スキーオリエンテーリングの愛好者として現地でサポートしたり、声援を送ってきます。

武石雄市(団長)

選手の実力が十分に発揮されるように、すべての環境を整えてやることに精一杯気を配ります。

(武石雄市)